

目指す学校像	◇ 道義と秩序を重んじ、自己に責任を持つ自主・自律生活の実践を図る学校 ◇ 学問尊重と真理を求める気風の育成を図る学校 ◇ 自他の敬愛と協力による豊かで快活な生活態度の樹立を図る学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
進学指導においては、茨城大学を含む国公立大学合格者が4名、私立大学においては110名であった。進学希望者は多いが、意欲が持続せず安易な進路選択に陥るケースも少なくない。就職指導においては、早期からの指導が定着し、内定率は100%であった。学習習慣の確立が十分でなく、家庭学習時間の確保や進路目標の早期設定による自学意識の向上が課題である。国公立大学をはじめとする大学への進学率を更に増加させたい。学年と教科の連携を図り、きめ細やかな面接指導に加え、「総合的な探求の時間」やホームルーム活動で進路意識の高揚を図るなど、3年間を見通した組織的・計画的なキャリア形成に努める必要がある。 また、部活動においては、加入率が67.5%(2019.5調査)と高い水準を維持しており、全国・関東大会への出場を決めるなど学校全体に活気がある。文武両道を目指し、心身共に健全な生徒の育成に努めたい。 さらに、学校近隣の住民や、地域の小学校や中学校に対し、定期的にホームページの更新や学校便り等で情報を提供し、地域に愛される学校づくりに努めていきたい。	学習指導の充実	◇ 教科指導の充実・学力向上 ア 指導内容の充実と授業時間の確保 イ アクティブ・ラーニングを取り入れた指導方法の改善と工夫 ウ 自学自習と学習活動の習慣化 ◇ 授業第一主義 ア 予習をして授業に臨み、復習をして学力を身に付けさせる鹿島スタイルの浸透	A
	進路指導の充実 生徒の希望・目標を実現できる学校	◇ 進路指導の強化 ア 個人面談等を繰り返し行い、進路目標の早期明確化と、その目標実現に向けた効果的・継続的な取組 ◇ 就職指導の充実 ア 資格取得の奨励や望ましい職業観・勤労観の育成を推進	B
	基本的生活習慣の確立	◇ 秩序を重んじ、自ら律する心や他人を思いやる心の育成 ア 人権尊重(偏見・差別をなくす) イ 規律の遵守 ◇ 健康や安全意識の高揚と、交通安全・防災教育の充実 ア 交通安全教育の充実 イ 防災教育の充実 ウ AED講習会及び性教育の推進 エ 薬物乱用防止教育の推進	B
	特別活動の振興	◇ ホームルーム・生徒会活動の活性化 ◇ 部活動を奨励し、心身ともに健康の維持・増進 ア 施設設備の効率的かつ効果的な利用 イ 地域の行事やボランティア活動への理解と参加	B
	学校組織運営の見直し	◇ 業務改善を図るタスクフォースの設置 ア 必ずしも教員が担うべき業務であるが削減や縮小の必要な業務の見直し イ 必ずしも教員が担うべき必要のない業務への対応 ウ 校務分掌・学年等の組織内の業務平準化への取組の推進 ◇ 職場環境整備の推進	B
	健康 あいあい 【和気藹々】 報・連・相		

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (全体)		基礎・基本の確かな定着	基礎・基本を定着させるために練習問題等を積極的に課し、反復学習を徹底させる。	A	生徒の学力の実態に即した進路指導や学習指導の意義を捉え直し、特に新学習指導要領の個に応じた指導を一層重視した指導体制を確立していく。
		わかりやすい授業の展開	「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導方法を研究し、指導力向上に努める。	A	
			教員間で学習指導に関する情報交換を密に行い、自らの授業改善に活かす。	A	
		学習習慣の確立	生徒の理解度を的確に把握し、確実に理解できる指導方法を工夫改善していく。	B	
教 科	国 語	基礎学力の向上と、家庭での学習習慣の定着	家庭での自主学習の必要性和効果が実感できる授業を展開し、学習の習慣化を図る。	A	来年度からタブレット端末を活用した授業が本格的実施となる。国語科として効率的な指導方法の研修と活用事例等の勉強会を重ね、教員個々の資質力向上を目指していく。
			小テストなど具体的な学習課題を課し、確かな基礎学力の向上を図る。	A	
			新聞を活用した学習や図書の紹介などを通して、国語体験の充実を図る。	A	
		授業の改善	漢字検定や読書感想文コンクール参加等を通して、語彙力や作文力の向上を図る。	A	
			年間指導計画と評価規準を活用して、授業目標の具現化を図る。	A	
			生徒の学習状況や理解度を把握し、授業に活かすための指導方法の工夫改善を図る。	A	
	地 歴	基礎学力の向上	各種研修会に参加して教科研修に励み、自己研鑽に努め指導力向上を図る。	A	基礎学力の定着とともに、生徒が課題意識を持ち、その課題について追究できる学習の充実を図るため、教科内での連携や研修体制を整える。また、視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。更に大学入試共通テストの指導が行えるように対策強化が必要である。
			基礎・基本を大切にし、わからない語句は自ら調べることにより、学習内容を理解させる。	B	
			単元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。	A	
		地理・歴史への興味、関心を高める授業の工夫・改善	生徒への個別対応を重視し、考査前などの十分な補習時間の確保に努める。	B	
			大学入試新テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身につける。	B	
			新聞や視聴覚教材等の積極的な活用により、興味・関心を高める。	A	
		郷土を知り、郷土の歴史や伝統を守る気風の育成	資料の活用・レポートの作成や発表会等の活動を行い、主体的に学習できる機運を高める。	B	
			郷土の地理・歴史を学ぶことにより、自ら調べたり考察したりする態度を育てる。	B	

NO. 2

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 科	公 民	基礎学力の向上	基礎・基本を大切にし、わからない語句は自ら調べることにより、学習内容を理解させる。	B	主権者教育に関しては、模擬投票などの取り組みを行っていく。基礎学力の定着とともに、生徒が課題意識を持ち、その課題について追究できる学習の充実を図るため、教科内での連携や研修体制を整える。また、視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。更に大学入試共通テストの指導が行えるように対策強化が必要である。
			単元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。	A	
			生徒への個別対応を重視し、考査前などの十分な補習時間の確保に努める。	B	
		現代社会への興味・関心を高める授業の工夫・改善	大学入試新テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身につける。	B	
			新聞や視聴覚教材等の積極的な活用により具体的事象を認識し、興味・関心を高める。	B	
			時事問題を積極的に取り入れ、今を知り、未来を考えさせる機会を増やす。	B	
	民 数	人間としての在り方・生き方を考えさせる機会を増やし、職業観・人生観や公民としての在り方の育成	青年期の問題を自己の問題として捉えさせ、職業観・人生観について考える機会を増やす。	A	
			政治や選挙等について、高校生副教材を用いながら指導を充実させる。	B	
			現代社会の抱える諸課題や自分の考えをレポート等にまとめることにより、公民としての在り方、生き方を考えさせる。	B	
	学 数	基礎学力の向上	考査結果を主に学習の理解度を客観的に把握・分析し、理解の不十分な生徒に対して復習を主とした補習等の対応を充実させる。	B	課外指導の更なる充実、コース毎に応じた指導形態や希望進路に応じたきめ細かい指導は今後も継続していく。次年度以降も生徒の学習意欲の向上のため、デジタル教材の活用、予習・復習の習慣化、必要に応じて補習等の対応なども行っていく。
			課外の指導方法を充実させ、生徒一人一人の進路に応じたきめ細かい指導を図る。	A	
			教科書や問題集の内容から定期的に課題を与えることで、予習・復習の習慣化を図る。	B	
		進路希望に応じた指導	副教材や課題を類型・コース毎に分類するとともに、習熟度別に応じた指導を徹底する。	A	
			習熟度別に少人数に分けた課外を実践し、受験に向けたきめ細かい指導をする。	A	
		指導と評価の改善	授業進捗の確認や生徒の理解状況などを教員間で定期的に共有し、指導に活かす。	A	
			単元目標を明確にした指導と評価を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。	A	

科	理 科	科学的に探究する能力と態度の育成	アクティブ・ラーニングを重視した観察・実験を通して理解を深めさせる指導方法の充実を図る。	A	A	コロナ禍により授業の計画立案が困難な中、今後もできる限り実験実習等を継続していく。また、薬品等在庫管理の徹底を図るため、事前に使用計画表の提出を求め効率的な管理体制の整備。
			ワークシートの活用をとおして、考え方の道筋をより理解できるように工夫する。	A		
	科学的な自然観を育成	学習内容と自然現象や科学技術との関係を示し、生徒の興味・関心を育てる。	B			
		発問や問題練習の中で生徒からの質問を促し、双方向のかつ探究的な授業を行う。	A			
		課題をとおして、授業の復習を徹底し、授業内容のより一層の理解と定着を図る。	B			
	保 健 体 育	生徒が自主的・意欲的に活動できる場の設定	グループ活動をとおして各グループの課題に気付かせ、互いに学び認め合う態度の育成と協働的に課題解決できるための場の設定を行う。	A	A	今後もコロナ禍で種目・活動内容などが限定される中であっても、主体的に活動し、運動の楽しさ、喜びを感じられる指導法や場の設定の工夫を今後も行っていく。また、体育、保健の授業で目的に応じたICT機器の活用やデジタル教材の活用し、自身の健康の保持増進についてより興味関心を持って取り組める環境作りができるよう、今後、検討していく。
			ICT機器を活用してトップレベルとの技能比較をし練習方法を考えさせる場の設定を行う。	B		
			運動に積極的に取り組めるような活気あふれる雰囲気作りをする。	A		
		生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成	各種の運動特性に触れ、その運動の楽しさや喜びを体得できる指導方法を工夫する。	A		
			生徒の能力・適正、興味・関心等に応じて種目選択を促し活動意欲の向上を図る。	A		
			日常生活に運動を計画的・継続的に取り入れることのできる指導方法を工夫する。	B		
			健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上	健康診断や体力測定結果を踏まえ、健康の保持増進と体力向上を目指す態度を育成する。		
		現代の健康課題を明確に捉え、より健康増進を目指すための知識や手段を実践できる態度の育成を目指した授業内容と指導方法を工夫する。		A		

NO. 3

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 育	芸 術	授業において芸術の幅広い活動を展開	科目ごとに実践的・体験的な諸活動を多く取り入れた指導内容の工夫をする。	B	A タブレットの活用、オンライン授業への対応が課題である。コロナ禍により活動に制限があったが、今後も柔軟に対応していきたい。
			鑑賞をとおして、創造・表現力を向上させる言語活動を重視した指導方法を工夫する。	A	
			生徒が興味や関心、個性を生かして主体的に関わっていけるよう指導方法を充実させる。	A	
		生涯にわたり芸術を愛好する心身の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒のもつ芸術的な価値意識を一層拡大できるよう教材を工夫する。	B	
			生活を明るく豊かにするための創造活動を重視し基礎的な資質能力を育成する指導内容・教材を工夫する。	A	
		我が国の伝統や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探究	日本の伝統音楽に触れる機会を増やし、歴史や哲学など発展的な学習を工夫する。（音楽）	A	
			鑑賞や制作活動を通して日本の伝統美術の独自性を考察させる指導を工夫する。（美術）	A	
			それぞれの分野の歴史やその時代・生活背景について学ぶ時間をつくる場の工夫をする。	A	
	外 国	家庭学習の習慣化	それぞれの美しさや多様性がより鮮明に感じ取れるよう教材の工夫に努める。	B	B 「Gigaスクール構想」により、生徒一人に対して1台のI-padが導入されることから、ICT機器を活用した効率的な授業研究を全体で計画・実施していくことが必要である。 グランドデザイン導入に合わせた、指導内容による統一を学年間でも進める。また、評価についても、統一を図れるように進める。
		基礎学力の向上	「鹿島スタイル」である予習・授業・復習のサイクルを確立させ、家庭学習の習慣化を図る。	A	
			授業中の声かけ、机間指導、定期的なノートや課題等の点検を通して生徒の理解度を的確に把握し、適切な指導に活かす。	B	
		英語力の更なる向上	定期的な小テストや語彙力育成等を実施し、基礎学力の定着・向上を図る。	A	
			実用英語技能検定等の受験を積極的に奨励し、計画的・継続的に対策指導を実施する。	A	
			インタラクティブ・フォーラム、スピーチコンテスト、小学校等への出前授業など校外で開催される英語活動への参加者を増やし、総合的な対策指導を行う。	-	
			ICT機器を積極的に活用し、4技能5領域の英語力をバランス良く高める指導を行う。	C	

科	語	生徒が意欲的に取り組む授業への工夫と改善	授業内容や指導方法について、教員間で情報共有を行い常に授業の工夫改善を行う。	C	新大学入試共通テストへの対応。 (表中の「-」は未実施を示す)
			本年度から導入する学校設定科目「ACEプログラム」と「英語読解」の授業を通して、英語への関心をさらに高めさせる指導方法の工夫をする。	B	
			新学習指導要領及び『大学入試共通テスト』等に対応した指導が行えるよう、研修会等に参加したり、関連書物で情報を得るなどして、指導内容及び方法の幅を広げる。	B	
				B	
	家庭	授業・指導法の研究と工夫	生徒の学習意欲を高める指導法の研究と生徒の自立に役立つ授業を実践する。自分の生活をデザインし将来の家庭生活について自己決定のできるような力を学ばせる指導内容の工夫をする。	B	B 次年度は今年度の学習結果を踏まえ、コロナ感染等の現状に即した単元の指導計画及び感染対策を万全とする実現可能な調理実習等を計画していく。
				B	
		生活に必要な知識と実習・実験の充実	実験・実習をととして、技術の定着を図り生活的自立を推進できる学習内容を工夫する。	B	
			生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭生活を創造する能力と実践的態度を育てる指導内容の工夫をする。	B	
	情報	コンピュータの基本操作の理解	普段からコンピュータの効果的な活用を目指し、操作技能を高める指導内容を工夫する。	A	A 情報モラル等の知識を習得させる指導方法の工夫改善が必要。 また、ICT機器の効果的な活用法についての研修が必要である。
			アプリケーションソフトウェアの基本的な操作方法を理解させる授業内容の工夫をする。	A	
		情報通信ネットワークの理解	情報通信ネットワークに関する情報収集や発信において、信頼性や信憑性を留意させるとともに、個人情報保護や著作権等にも配慮させ、情報化社会で必要な心構えについて学習させる。	A	
				A	
	商業	コンピュータの基本的なデータ処理	市販ソフトを活用し基本的な操作技能を身に付けさせる指導方法の工夫をする。	A	A データ処理能力と情報モラルに関する知識・技能を身に付けさせる指導の工夫を図る。 生徒が主体的に活動できる専門的な学習方法について研修が必要である。
			情報化社会に対応できる能力を身に付けさせる教材の工夫をする。	A	
		情報化社会を認識した活用技術の定着	情報化社会におけるコンピュータの役割を理解させ、専門用語や基本的なデータ処理の方法を学習するとともに、日常生活で活用できる力を身に付けさせる授業内容の工夫をする。	A	
			生徒一人ひとりの能力に応じた受験級を設定し、検定試験により技術の到達度や知識の理解度を確認させる。	A	

NO. 4

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	学科改編・中高一貫教育校の運営を推進する。	グランドデザインを基に魅力ある新教育課程を編成し、高校と附属中の円滑な学校運営のために尽力する。	A	令和5年度から実施する進学重視型単位制の実施に向けて、教育課程編成等に必要な諸準備を進めていく。
	生徒が生き生きと輝く授業実践及び学習評価と校内研修の充実を図る。	定期考査の滞りない実施や、観点別評価による適正な評価により、授業へ取り組む意欲を喚起する。	B	
	授業時間の確保と緊密な連絡・調整を行う。	各分掌・学年との連携・調整のもと、行事・日程等の効率化を図りながら、授業時間の確保に努める。	A	
生徒指導	人権尊重の精神の育成	総合・道徳の時間の中で、命の尊さについて話し合い考えさせる。	A	A これからの学校教育の中での生徒指導の在り方をふまえ、時代に即した指導が必要となる。本校において、生徒の性質や地域性を考慮して適切な指導を行っていく。 ※(表中の－は未実施を示す)
		偏見や差別のない学校生活の構築に努める。	A	
		集会やホームルーム等を積極的に活用する。	B	
	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活リズムの確立を図る。	A	
		頭髪や服装など規則厳守の精神の育成に努める。	A	
		社会の一員であることを自覚し、正しい判断力の育成に努める。	A	
	交通安全教育の推進	関係機関による講演会や校外指導を実施することで、交通事故防止に努める。	－	
		自転車・原付バイク・四輪車について、登録管理の徹底及び免許取得規定の厳守を図る。	A	
		生徒の自転車運転における損害賠償保険の加入に努める。	A	
	情報モラル教育及び有害情報対策	様々な機会を捉えて、情報活用能力の育成を図る。	B	
		講演会等を通して有害情報をより具体的に生徒に提示する。	－	
		警察をはじめ、大学や医療機関による薬物乱用防止講話を実施する。	－	
	薬物乱用防止教育の推進	警察との連携を密にし、情報交換を行う。	－	

進路指導	進路目標の実現	進路希望・学習実態調査を年間3回実施し、定期的に生徒の実態把握に努め、各学年の適切な進路・学習指導をサポートする。	A	A	引き続き新型コロナ拡大防止策を講じながら、各学年のキャリア支援・希望進路の実現のため、連携をより強化したい。 ※一印はコロナ禍により判定不可
		全国模試・適性検査等の分析による生徒の学力状況の把握・評価を行う。	A		
		就職希望者に企業見学を実施し、一人一人に適する就職を実現し、内定率100%を目指す。	A		
	進路意識の高揚	各学年と連携した各種キャリア支援・進路行事の企画・立案をする。	A		
		上級学校の公開講座や体験学習、オープンキャンパスへの参加を勧める。	—		
		インターンシップ（看護・リハビリ体験等）を活用し職業に対する意識を高める。	—		
		課外授業・学力向上講座や各種検定試験への積極的な参加を支援し自ら学ぶ姿勢を育成する。	A		
		外部講師によるキャリア・ガイダンス等を実施し、生徒の勤労や職業に関する視野を広げる。	—		
	組織的な指導体制の構築	「進路資料」「進路通信」を発行し、精選した進路情報を提供し、各学年の適切な進路指導をサポートする。	A		
		利用促進のために進路資料室を整備し、進路相談に適切に対応できるよう努める。	B		

NO. 5

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	ホームルーム活動の充実	生徒による主体的なHR運営と、特色のあるHR活動の実践を支援する。	A	B 新型コロナ感染症対策を継続的に進めつつ、次年度の生徒会諸行事について、安全な実施を目指し、年度当初から、綿密な計画と実施方法について工夫と検討を重ね、新たな形を構築していく。
	生徒会活動および学校行事の充実	生徒の自主的・自発的活動を促すとともにキャリアパスポートを活用した行事運営を実践していく、また、主体的な学校行事の企画運営に関して中・高が協力して行うよう支援する。	B	
		各種行事をとおして自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。	A	
	部活動の充実	部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進に努める。	A	
		統一的な指導体制を堅持し、部活動の環境を整える。	B	
	ボランティア活動への理解と参加	生徒が自主的にボランティア活動ができるように情報を提供し、奉仕の心の育成を図る。	B	
		地域社会に目を向け、地域に貢献する人材の育成を図る。	B	
学習研究・図書視聴覚	基礎学力の向上と学習習慣の確立	スタディサポート/CLASSiを通じて学習実態調査を行う。	B	A Classiを使つての月別学習実態調査を試みたが、諸問題により実現できなかった。そのため、次年度は担任教諭の業務負担増にならないマニュアルを作成していく。今年度コロナ禍でできなかった感想文コンクールの応募、「地区研修会」の運営、「読書講座」や「中央研修会」の参加等活性化できるよう再考していく。
	効果的な学習指導法の研究と実践	教職員研修会の実施	B	
	小論文・探究的な学習の体系化	年間を通して小論文や探究的な学習が行えるような組織作りを行う。	A	
	図書館・視聴覚室の環境整備と充実	図書館の常時開館、視聴覚室等の環境整備に努め、利用しやすい環境づくりに努める。	A	
		生徒や職員に購入希望調査を行い、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	A	
	本に親しむ環境整備	読書・学習・情報センターとして、機能的な環境づくりに努める。	A	
		図書委員会や放送委員会の活性化を図る。	A	
渉 外	PTA活動・同窓会活動の推進	PTA総会や同窓会活動への参加率を上げ、活動の活性化を図る。	A	A 創立110周年記念事業が無事終了することができた。今後、新たなPTA組織のあり方と業務内容の精選を含め抜本的に見直しを図る。
		同窓会・学校が連携を図り、創立110周年記念事業の推進を図る。	A	
	保護者と学校との連携	学校公開、進路説明会、保護者面談等を実施し、保護者と学校の緊密な連携を図る。	A	
	広報活動の充実	PTA新聞や同窓会ホームページの内容等を吟味し、その内容の充実に努める。	A	
		広報活動や各種研修会に積極的に参加する。	A	

保健安全 衛生	学習環境の整備	校内の施設設備の定期的な安全点検するとともに管理徹底を図る。	A	A	防災訓練については、新型コロナ感染対策による臨時休校や3密を回避のため、訓練内容の簡素化を図った。今後も感染対策を継続しながら、効果的な訓練方法を考え実施していきたい。 教育相談については、教職員の相談係に加え、スクールカウンセラーの協力の下、適切な助言や対応ができた。今後も関係部署と連携し、日頃から生徒の兆候（小さなサイン）を見逃さない指導を全教職員で実践していく。
	環境美化意識の高揚	整備委員会をはじめ、校内の美化に努める。	A		
		ゴミの分別処理の徹底を図る。	A		
	防災・防犯訓練の充実	防災避難訓練や不審者対策としての防犯訓練等を計画的に実施する。	A		
		地域の関係機関等との連携を図る。	B		
	心身の健康管理ができる生徒の育成	生徒の健康管理能力育成、体力の向上のための事業を計画的に実施していく。	B		
		積極的に体育的行事に参加させ、活動をとおして仲間づくりを実践させる。	A		
	健康・安全教育の充実	面談、相談を通して、生徒の健康問題等に早期に対応する。	B		
感染症対策、食生活、運動習慣確立のための情報発信を積極的に行う。		A			
情報政策 管理	成績の管理	統合型公務支援システムを充実させ、生徒の成績に関する情報を管理する。	A	A	1人1台端末の利活用についての研修が必要である。 また、働き方改革の実現に向けた取り組みを考え実践していく。
	情報発信の積極的な取り組み	ホームページを利用して、学校の取り組みを積極的に伝えていく。	A		
		39メールを活用し、必要な情報を生徒や保護者に伝えていく。	A		
広報広聴	働き方改革の推進	教員の勤務時間の正確な管理を行う。きんむくんを活用し管理することで、働き方改革を図る。	A	A	パソコン操作に習熟している教員に業務が集中してしまった。 また、業務内容と担当教員の配置を充実できるよう組織内整備に取り組んでいきたい。
	企画運営の習得	様々な広報活動に取り組む中で作業内容や意義を理解する。	A		
		附属中学校と緊密に連絡を取り合い協力して有機的な広報活動にする。	A		
	広報活動の刷新	学校ホームページを定期的に更新し、閲覧数を増やす。	A		
		昨年刷新されたスクールガイド、クリアファイルに、新たにポスターも加え、本校の広報活動が地域に見えるようにする。	A		
		写真や動画を積極的に活用することで、本校の教育活動を地域にわかりやすく知らせる。	A		
	学校紹介の充実	新しくポスターを製作することで学校説明会や学校公開を成功させる一助とする。	A		
鹿苑だより等で地域や保護者と情報を共有する。		A			

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1学年	本校の新しい歴史と伝統を作り上げていく精神の育成	創立110年の歴史と伝統を自覚し、学科改編第二回生としての誇りと自覚を持たせ、充実した高校生活を送るための意識を高める。	A	A ・大学の一般入試に対応できる学力を備えた生徒を100名以上育成する。 ・1年次に引き続いて文武両道の徹底を図る。 ・個性豊かで、心身共に健全な若者の育成を目指す ・学年と各校務分掌（進路・特活・生徒指導）との連携を図って教育活動にあたる。 ・探求学習の計画を明確に立てて実施する。
	規範意識の涵養と心の教育	学年集会や道德等を通じて、基本的な生活習慣の確立に努める。	A	
		道德・LHRを含む教育活動全体の中で、規範意識の向上と心の教育を図る。	A	
		主体的に授業に取り組む姿勢を養い、基礎学力を身につけさせ、自らの成長を実感できるようにする。	A	
	学力の向上と進路目標の設定	家庭学習の習慣化及び学習内容の定着を図るため、宿題やチェックテスト等を多く課す。	A	
		学力向上講座、各種進路行事に積極的に参加させ、将来の進路選択の方向性を定めさせる。	B	
	特別活動に積極的に参加する精神の高揚	部活動や生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等への積極的な参加を促すとともに、自主・自律の姿勢を持たせ学業との両立をさせ、健全な精神の育成を図る。	A	
第2学年	学力の向上と進路目標の設定	「鹿島スタイル」である予習・授業・復習のサイクルを確立させ、主体的に授業に取り組む姿勢を養い、基礎学力を身につけさせ、自らの成長を実感できるようにする。	C	C ・コロナ禍でも可能な各種講座、特別活動、進路指導等の模索。 ・生徒の主体的・積極的学習活動を定着させ、より高い目標設定と自己実現を図る。 ・進路に対して向き合っていない生徒に真剣に考えるように指導し続ける。 ・計画力・継続力を育成する。 ・自律と自立する心を育成する。
		家庭学習の習慣化及び学習内容の定着を図るため、各教科で小テスト等を実施する。	B	
		学力向上のための課外講座、各種進路行事に積極的に参加させ、将来の進路選択の方向性を定めさせる。	C	
	規範意識の涵養と心の教育	学年集会やきめ細やかな個別面談指導等を通じて、基本的な生活習慣の確立に努める。	C	
		道德プラス・LHRをはじめ教育活動全体の中で、規範意識の向上と心の教育を図る。	C	
	学校生活の充実	文武両道の精神に基づき、部活動と学業の両立を図れるようサポートする。	B	
		修学旅行をはじめとする学年行事を有意義なものにするため、事前に綿密な計画をし、教員間の連携を図りながらその実現を目指す。	B	
	特別活動に参画する精神の高揚	生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等の社会貢献活動への積極的な参加を促し、健全な精神の育成を図る。	C	
第3学年	鹿島高校最上級生として品位のある生活態度の確立	伝統校の生徒として誇りを持ち、校内外を問わず、正しい服装・態度を心がけるよう継続的に指導する。	A	A 定期試験の成績が、模擬試験の成績に結びついてこない。理解していることを応用して、解答に結びつける思考力の醸成が必要である。校外での模試にも積極的に参加するように指導し、より緊張感を持って受験に臨む経験を身につけさせることは課題。就職希望者等に対する進路別指導の継続は引き続き重視していく。
		言葉遣い、挨拶などTP0をわきまえた所作がきちんと出来るように指導する。	A	
		集団の中での役割を自覚するとともに、社会性を身に付けるため、各係や清掃活動を通して責任感や助け合いの心を育てる。	A	
	進路意識の高揚と進路実現のための確かな学力を醸成	面談等の個別指導の充実を図り、生徒がより良い進路選択をできるように、進路指導を丁寧に行う。	A	
		授業に集中し、家庭学習も定着させ、希望進路の実現に向けて生徒の学力向上を図る。	A	
	学校生活のまとめ	自主・自立の姿勢を中心に部活動と学業の両立を図るよう、継続的に指導する。	B	
		高校生活の集大成がしっかりとできるように、対話の教育を実践し支援する。	A	

※ 評価基準

A＝大変良くてきた B＝良くてきた C＝普通 D＝やや不十分 E＝不十分